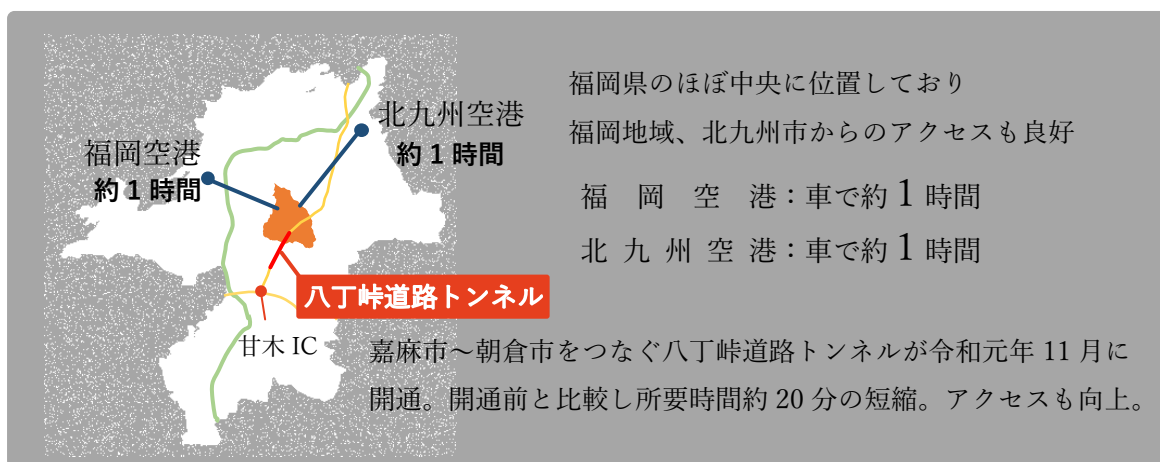


日本酒による嘉麻市ブランディング戦略構築

地域活性推進課

■背景と問題意識

2006年3月に1市3町が合併し誕生した嘉麻市は、古代からの長い歴史を持つ、福岡県のほぼ中央に位置する自然豊かなまちである。全域にわたり北部九州最大の遠賀川が流れ、嘉穂アルプス・森林・耕作地が広がるため、福岡市内・北九州市から車で約1時間、都会から少しだけ車を走らせると、嘉麻市の自然と歴史を体験でき、特産品でもある美味しい米・野菜・フルーツ・酒（酒蔵3蔵）などを味わえる観光名所となっている。



実際、嘉麻市の面積は約135.11km²だが、そのうち約52%は森林・耕作地である。特に、北部九州最大の川である全長61kmの遠賀川の源流が市内にある馬見山の山中にあり、穂波川や彦山川など多くの川と一緒にしながら、関門海峡の北西に広がる海域である響灘へと注がれている。

古来からこの遠賀川の「水」の豊かさは、稲作文化を形成し、石炭産業を支えてきたことから、人々の間では「母なる川」と呼ばれてきた。嘉麻市をはじめ、飯塚市、直方市、中間市、北九州市など7市14町1村を流れ、流域面積は1026km²。およそ67万人がその流れの恩恵を受けている。多くのまちに、人に豊穡をもたらす川の源流があることは、本市の大きな誇りである。

この遠賀川の源流の、清らかな伏流水で造られる嘉麻市の日本酒は、戦国時代から武将たちに愛されてきた。今でも江戸時代から創業する歴史ある酒造が3つ存在し、全国のココンクールにおいても金賞を受賞するほどの味わいの日本酒を製造している（全国でも有数の酒造数を誇る福岡県の中でも、嘉麻市は1酒造あたりの人口数は第6位と上位を占める）

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康。三人の天下人に愛され、恐れられた男、黒田官兵衛。官兵衛が黒田家の精鋭二十四人を選んだ家臣団【黒田二十四騎】。嘉麻市にはそのうちの『母里太兵衛』『後藤又兵衛』ゆかりの史跡などが多数残される。

「酒は飲め飲め、飲むならば、日の本一のこの槍を、飲み取るほどに飲むならば、これぞ誠の黒田節」の一節は有名。

●寒北斗酒造

創業 1729 年、測量家の伊能忠敬が滞在した記録もあり、酒の美味しさを左右する「仕込み水」は馬見山から染み出した地下水を敷地内からくみ上げたもの。9 年前『玉の井酒造』から『寒北斗酒造』へとその名を改めた。JR 九州「ななつ星 in 九州」に純米大吟醸 吟遊が採用され、敷地内の 3 つの建物が国登録有形文化財に選ばれた。従業員数は常勤 10 名、季節 4 名。



母里太兵衛肖像

寒北斗

純米大吟醸 吟遊

●大里酒造

創業 1835 年、黒田節をモチーフに誕生した黒田武士、8 代目社長の大里至氏が杜氏を兼任し、少人数で「気配りの手造り」にこだわった酒造りを実践。酒蔵の裏山には、かつて黒田藩大里益富城があり、お酒を愛した城主母里太兵衛にあやかった「黒田武士」をメインに様々なあじわいを生み出している。社長自らが米作りの田植えから杜氏に加わり、微妙な酒米の手触りを確認し、気候気温で発酵初期の泡の状況が 30 分で変わるため、声を発しない子を育てるように気を使って、わずかな変化にも対応しつつ、酒を仕込んでいます。



黒田武士

●梅ヶ谷酒造

1834 年創業、その由来は明治の大横綱・梅ヶ谷藤太郎、めっぼう相撲が強く酒豪としても知られた横綱を当時最頂にしていたのが蔵の当主で「梅ヶ谷」の名を使用させてもらうことになった。来年度、建物を大幅にリニューアルし日本酒の他リキュールや梅ジュース、奈良漬けなどの製造も予定。



梅ヶ谷

しかしながら、嘉麻市にはこれだけ歴史のある「うまい酒」があるにも関わらず、嘉麻市の酒の知名度は県外ではそれほど高くないのが実態である。これまで嘉麻市としてブランディングに特化した取り組みについては積極的に行っていないが、ふるさと納税への出品や参考資料のような情報誌等への掲載、酒に関するイベントを行ってきた。

しかし、ふるさと納税の寄付状況でみるとお酒の出荷量は伸び悩んでおり、平成 30 年でも 200 本前後。令和 2 年には 80 本代にまで低下している。

一方、嘉麻市の状況を振り返ると、急速な人口減少と高齢化が同時に加速している。現人口は 36,944 人(令和 2 年 12 月末時点)だが、これは 20 年前と比較すると約 1 万 1 千人もの人口が失われたことになる。今後自治体としての機能を維持していくためには、地域外及び地域の方への魅力発信が不可欠という危機感がある一方、1 市 3 町が合併して嘉麻市となり 15 年程経過した今でも、福岡市などの近隣都市の人たちですら、【嘉麻市】と聞いても認識できない人が多いのが実情である。

このため、市内の酒のような”きらり”と光るものをブランディングし、それを戦略的に多くの人に認知していただき、「〇〇といえば嘉麻市だね」、「△△をたべに嘉麻市に行こう」といわれるような、小さくても”きらり”と光る特色のある自治体にしていかないと、消滅可能性都市からの脱却は非常に困難であると考えている。

こうした中本市としては、嘉麻市の歴史ある「日本酒」を最大限にアピールし、【嘉麻市】と聞けば「うまい酒」と明確化にイメージしてもらい、嘉麻市の知名度向上、地域イメージ向上へと繋がるような嘉麻市ブランディング戦略を構築したい。

本プロジェクトでは、「嘉麻市の酒」の知名度・認知度を上げ、出荷数を3年で2倍にする画期的な官民共同でのブランディング戦略を検討し、そのグランドデザインを提案していただきたい。

■本プロジェクトで検討・提案いただきたいこと

1. 「歴史のあるうまい酒」という強みがあるにもかかわらず、嘉麻市の酒が県外ではあまり知られておらず、県内でも「嘉麻市といえbaumまい酒」というイメージに繋がるほどの地域ブランドに育ち切れていないのはなぜか。嘉麻市内の酒造へのヒアリング・実態調査や、「地元のお酒」の知名度が高い他自治体の成功事例分析、酒に関するユーザーヒアリングなどを経たうえで、現状の問題点を立体的に浮彫りにし、本質課題を明らかにしていただきたい。

・そもそも地方酒造の日本酒の県外での知名度・出荷量は、どのようなメカニズムで向上していくものなのか。急速に知名度があがった地方の日本酒銘柄が出荷量を上げていったプロセスを可能な限り紐解くと同時に、日本酒を嗜む人々がどこで情報を得て、どう新たな銘柄を認知・検討・購買していくのかについて構造的に把握し、嘉麻市が目指す姿を実現するにあたって抑えるべき必須ポイントを洗い出していきたい。

(近年知名度が高い日本酒の例<ご参考>)

(例1) 山口県旭酒造「獺祭」純米大吟醸 1800ml@3,300 円【<https://www.asahishuzo.ne.jp/about/>】

・安倍首相が山口県出身でこのお酒が一躍有名となり、手に入りにくい酒類もある。もともと「酔うため売るための酒でなく、味わう酒を求めて」というコンセプトが認められ、今や世界にも通用する日本酒の牽引車でもある。

(例2) SAKE HUNDRED「白光」純米大吟醸 720ml@27,500 円【<https://sake100.com/>】

・最高峰の酒造技術を持つ酒蔵と共同開発したオリジナル日本酒である。酒造元は山形県楯の川酒造。世界的ワイン品評会「SAKE部門」で金メダル受賞、G20で振舞われた逸品。精米歩合を18%になるまで200時間以上費やし一切の雑味がなく洋ナシのようなクリアな味わいでフィニッシュが長い。2008年8月発売からわずか3日で完売、現在日本で一番手に入りにくい逸品。

・その際、寒北斗、黒田武士を中心とする嘉麻市の地酒についての認知度がそれほど高くないのはなぜか、県外サンプルとして東京都内、県内サンプルとして福岡市内の「日本酒を嗜なむ人々」へのインタビュー・アンケート等を行い、現状の「嘉麻市の酒」の認知度や認知購買プロセスの課題についても明らかにしていただきたい。

・同時に、嘉麻市内の2つの酒蔵へのヒアリングを行い、各酒蔵がどんな想いで酒造りに取り組み、またこれから成長・進化を遂げようとしているのか、より知名度を上げ・出荷量を増やしていくうえで、これまでどんな挑戦をされ、どんな問題点・ボトルネックに直面してきたかについても丁寧に深堀し、市と協働で解決していくべき本質課題を特定していただきたい。

※梅ヶ谷酒造は現在リニューアル前で酒造りを行っておらず、現段階では本社の了承を得られていない状況であり本プロジェクトへの参加は難しい可能性あり。寒北斗酒造および大里酒造については全面的に協力いただける旨の回答あり。

2. 「嘉麻市の酒」の県内外認知度を格段に上げ、嘉麻市からの日本酒出荷数を成長させるとともに、「嘉麻市といえbaumい酒」という地域ブランドを嘉麻市が確立するためには、嘉麻市としてどのような施策を講じていく必要があるか。既成概念に囚われない画期的な発想で、市と酒造が連携することで実現できる、具体的かつ実効的なブランディング戦略のグランドデザインを提案をいただきたい

・目指すゴールとしては、市が酒造とが密接に協働・連携する嘉麻市ブランディング戦略を打つことで「嘉麻市の酒」の日本酒出荷量を3年で倍くらいにするイメージ（＝市がモニタリングできる結果指標としては、ふるさと納税品としての出荷量も3年で倍以上に成長）を想定いただきたい。

・また、施策を検討されるうえでは、単に日本酒が出荷されるだけでなく、嘉麻市の酒が「嘉麻市の他の魅力」と相まって認知され、結果的に地域が活気づいていくような仕掛けについても、可能な限り模索していただきたい。

・なお、施策設計における制約条件・前提条件として勘案頂きたい項目は以下のとおり。

―市が投下できる年間予算として100万円以内、投下可能人員については、市職員2~3名を念頭においていただきたい。

―施策設計にあたっては、市が主導すること（できること）、酒造が主体となって仕掛けていくこと、それぞれの役割分担、連携スキームについても明らかにしていただき、酒造側としても実行したい、参画したいと思うスキームを提案いただきたい。

■参考資料

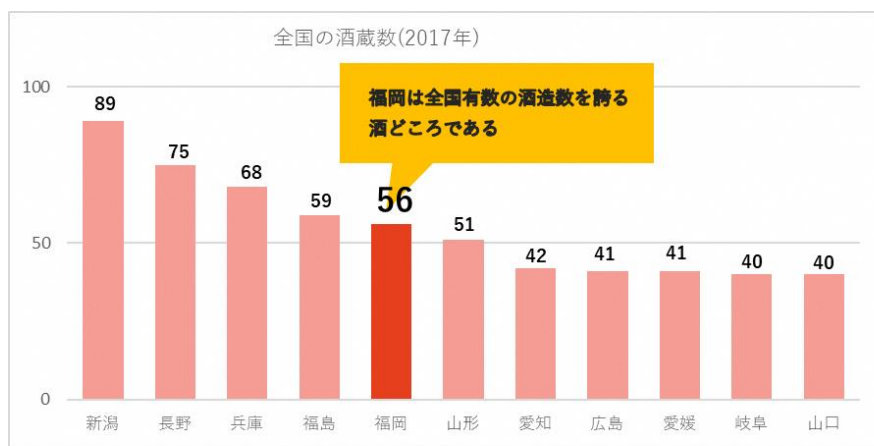
- (1) ふるさと納税日本酒出荷数 ※課題 4 別添資料 1
- (2) 現状での PR 要素やイベント
 - ・ ふるさと納税 【<https://www.city.kama.lg.jp/site/furusatotax/14594.html>】
 - ・ 嘉麻市観光情報誌『わたしのふるさと』【https://applied.meclib.jp/kama/book/#target/page_no=1】
 - ・ 地域の名品紹介冊子『嘉麻図鑑』【<https://ldp.chikuski.jp/kamazukan/>】
 - ・ 近隣の飯塚市と合同で行った食と酒のイベント『酒祭り』
【https://eee.world-p.co.jp/event/4th_chikuhou_sake_matsuri_1017/】
- (3) 2017 年瀬祭出荷量 【<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO34742810Z20C18A8LC0000/>】

<参考 1：福岡と嘉麻市の酒造数>

《福岡の酒蔵数は全国 5 位》

九州といえば焼酎のイメージが強いが、福岡は酒造数も全国で 5 位である。

日本酒造りは、米麴の温度と湿度の管理が難しく、以前は管理しやすい寒冷地の方が主流あったが、技術の発達によりその問題も解消。特に、美味しい日本酒を造るために欠かせない“良い米と水”が揃う北部九州は、日本酒造りに適した場所といえる。



参考：国税庁「清酒製造業の概況(平成30年度調査分)」

福岡県内における 1 酒蔵当たりの人口数

順位	市町村名	人口数	酒蔵数	1 酒蔵当たりの人口数
1	東峰村	2,035	1	2,035.0
2	添田町	9,553	2	4,776.5
3	上毛町	7,326	1	7,326.0
4	みやま市	36,996	5	7,399.2
5	大刀洗町	15,206	2	7,603.0
6	嘉麻市	37,273	3	12,424.3
7	八女市	62,800	5	12,560.0
8	大川市	33,903	2	16,951.5
9	朝倉市	51,047	3	17,015.7
10	みやこ町	19,480	1	19,480.0

参考：国税庁「清酒製造業の概況(平成30年度調査分)」

<参考 2：嘉麻市の現状課題>

■人口推移

嘉麻市人口は 36,944 人(令和 2 年 12 月末時点)。

毎年減少傾向にあり、20 年前と比較して約 1 万 1 千人減少している。

【資料 1】嘉麻市人口推移

年次	総数	男	女
2000 年(H12)	48,378	22,133	26,245
2010 年(H22)	42,589	19,400	23,189
2020 年(R2)	36,944	17,268	19,676



参考：嘉麻市統計書 令和2年4月改訂版

嘉麻市年齢区分別人口の統計から、令和 2 年度の年少人口（0～14 歳）

老年人口（65 歳以上）39.5%と高齢人口のシェアが高い。【資料 2】

年齢区分別人口より、老年人口の推移は増加傾向にありながら年少人口、生産年齢人口ともに減少している。

【資料 2】嘉麻市年齢別人口数

年次	年少人口 (0～14 歳)	生産年齢人口 (15～64 歳)	老年人口 (65 歳以上)
2000 年(H12)	6,638	29,421	12,240
2010 年(H22)	5,156	24,520	12,910
2020 年(R2)	4,032	18,336	14,576



年少、生産年齢人口は減少する一方、
高齢者は増加の傾向にある。

参考：嘉麻市統計書 令和2年4月改訂版

嘉麻市では、こうした人口減少対策として、以下の施策を行っている。

●「嘉麻市転入者等住まい応援納付金制度」

子育て世代の転入と本市への定住促進を図るため新築住宅の建設・購入、中古住宅購入の場合一部を補助。

●「嘉麻市結婚新生活支援事業補助金」

婚姻に伴う経済的負担を軽減するため、市内に住居を構える新婚世帯の新居の住居費等の一部を補助。

●「嘉麻市通学等補助金」

通学等に市バス・西鉄バス・JR 等を利用している方を対象に定期券及び学生向けエリア定期券の購入金額 5 割程度補助。

●「子ども医療」

市内在住の中学校 3 年生の学年末までの児童に対し、健康保険が適用される医療費の自己負担額助成。

●「嘉麻市商業店舗リフォーム補助金制度」

商業の振興及び活性化を図るために市内の商業店舗のリフォーム工事を行う場合、経費の一部を補助。

しかしながら、全国的な人口減少傾向を受け、本市の人口減少にも歯止めがかからない状況。

本市には自然豊かな地域で育まれた豊富な米や農産物があり、また子育て世代に向けた支援も充実しているにも関わらず、人口流出を止めることができていない。

生産年齢人口の転出も多くみられる本市では少子高齢化が進み、将来的に事業者の後継者不足や労働者の確保が難しくなってくることが推察される。



参考：平成27年国勢調査『現住市区町村による5年前の常住地,年齢(5歳階級),男女別人口(転入、転出)』

■嘉麻市の強み・弱み（職員分析より）

（強み）

- ・遠賀川の源流を有する県内屈指の自然豊かな地域
- ・豊かな自然と環境で育まれる米・農産物・酒が美味しい
- ・ジビエ・牛肉が美味しい（鹿・猪・嘉穂牛・赤崎牛）
- ・福岡県のほぼ中央に位置し福岡市・北九州市から約1時間
- ・八丁トンネル開通でよりアクセス向上
- ・嘉穂アルプス（日本山岳遺産）
- ・歴史背景があるまち（鮭神社・一夜城・関所・・・）
- ・K-WALL（九州最大規模）
- ・九州ボルダリング大会・駅伝コース
- ・嘉麻市役所（グッドデザイン賞授賞）

(弱み)

- ・ 嘉麻市の魅力 PR 不足（自覚がない・気が付いていない）
- ・ 宿泊施設と飲食店の不足
- ・ アクセスが悪い（車でしか来れない）
- ・ 観光まちづくり協会による地域づくりの人材不足
- ・ ビッグブランドの飲食店や施設がない
- ・ 特産品の開発（担い手不足）や PR が不十分
- ・ 大型商業施設がない
- ・ キャッシュレス決済店舗が少ない
- ・ ワークेशन・グランピング施設がない
- ・ ビジネス面の取組が脆弱

■ 嘉麻市の知名度ランキング（※ネット検索参照）

- ・ 嘉麻市は 60 市町村中、ほぼ真ん中あたり
- ・ 嘉麻市の知名度は 10 % ほど